



松柏小学校 学校便り

R7. 10. 17 (金)

えがなかちゃん

No.15

—笑顔・なかま・チャレンジ—

校長 加地孝昌



**校長先生に相談
があります！**



10月3日(木)、保健委員会の子どもたちが、「校長先生、相談があります。」と校長室に訪ねて来ました。聞くと、学校内で危険箇所を探していると、体育館入口のマットにシューズが引っかかって危ないから相談に来ましたということでした。

する自主性を感じました。私は、子どもたちに、さらに考えてほしいと思い、「どんなふうに危なくて、どうしたらいいと思う？」と尋ねました。

丁度、その話の最中に2年生が体育で体育館にやって来ました。2年生が体育館に入った後、「校長先生、今、2年生が体育館に30人入って、3人が引っ掛かりました。」と訴えてきました。(説得力がある。素晴らしい。)と感心しました。続けて子どもたちは、「今のままだと危ないから、マットをのけるか、新しいマットがあったら端をテープで固定したらいいと思います。」と解決策を2つ提案してきました。

た。この提案もすばらしと思いました。そして、子どもたちとマットを観察してみると、マットが古くて表面の突起部分がたくさん折れており、置いておくとかえって体育館にゴミが入ることが分かり、撤去することにしました。

私は、「他にも危険箇所を見つけたら今日と同じように解決策も考えて伝えに来てほしい。」と話しました。子どもたちは、「はい。」と答え、表情からは、行動を起こして自分たちが学校を安全に変えれたことに対する達成感を感じている様子が伺えました。

『学校の主役は子どもたち』。その子どもたちが自主的に行動し、学校を良くする姿に頼もしさを感じ、とても嬉しくなりました!(^^)!



保護者の皆様にお願ひがあります！

11月26日（日）は、人権・同和教育参観日です。子どもたちの頑張る様子を楽しみにご参観ください。また、子どもたちの頑張った姿を各家庭で、たくさん「ほめて」いただきたいと思います。

お子さんが赤ちゃんの頃



赤ちゃんの頃は、各家庭でたくさんのほめ言葉が飛び交っていたのではないのでしょうか。「すごい！すごい！」「えっ、こんなことができるようになったの？びっくり！！」「あっ、笑った。かわいいなあ〜。」「何かモゴモゴ言葉言った！もう一回、言ってみて。うわー、上手に言えたねえ。」「自分でできるようになったんじゃないか。」「つかまり立ち、もうちょっと。わー、すごい。」「よう泣かんかったなあ。強いなあ。」・・・等々。

保育園・幼稚園・小学校時代



各家庭でたくさんほめられ、伸び伸び育ってきた子どもたち。しかし、保育園や小学校に入らななで、親は、我が子に良くなななしてほしいという思ひや願ひから、マイナス的な言葉を使うときはないのでしょうか。（私自身の経験を踏まえてます）「○さんは、大きな声で発表しよったよ。あなたの声は小さかったなあ。」「○さんの絵は丁寧。それに比べたら・・・」等々。人は誰かと比べられ、できていないと言われれば誰でも傷付きます。

比較する対象

赤ちゃんの頃は、お子さんの比べる対象は【昨日の我が子】でした。それが、参観日などになると、我が子の作品や学習態度を【他の子】と比べるようになり、「ほめ言葉」が赤ちゃんの頃と比較すると、圧倒的に少なくなっているように感じます。

どの子もがんばります！

どの子も、一生懸命です。どの子の作品の絵も時間を掛け、工夫を重ね、頑張って仕上げました。授業中、発表はできなかったお子さんがいるかもしれませんが、分なりたい、できるようになりたいという思ひはどの子も同じです。そして、どの子も、（お家の人がいいところを見せたい）と思っています。お子さんの良さや頑張りをたっぷりとほめていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

